

千葉商科大学 第1回ユニバーシティ・アワー

健康都市とまちづくり

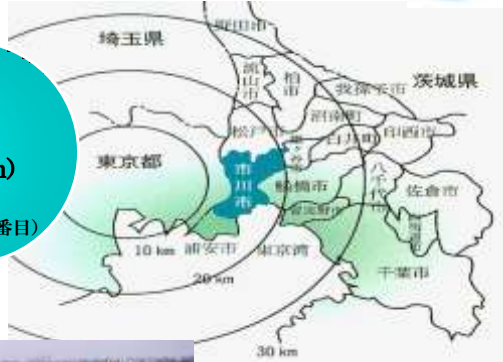
市川市長 千葉 光行



東京に隣接する住宅都市



- ・人口：472,710人
(平成20年9月1日現在)
- ・面積：56.39 km²
(東西8Km 南北13Km)
- ・人口密度：約8300人/km²
(1787市町村中30番目)



北部



中部



南部



歴史と文化のまち



国宝・重要文化財・史跡

- ・ 美濃輪台遺跡・曾谷貝塚・姥山貝塚
- ・ 下総国分寺跡・下総国分尼寺跡
- ・ 中山法華経寺(立正安国論)



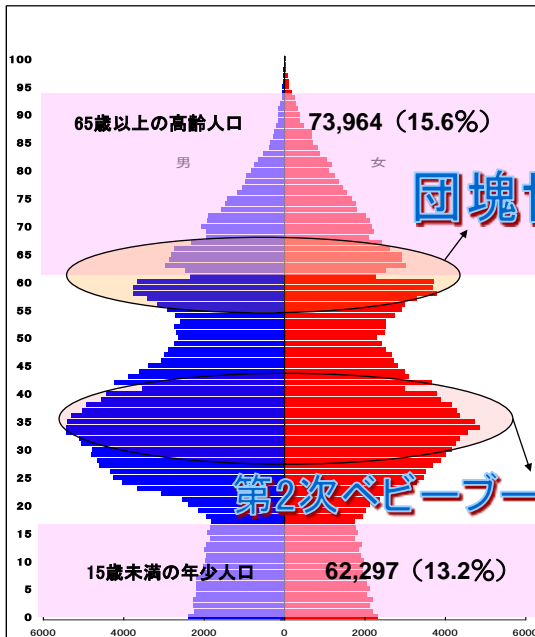
文化勲章受章者

- ・ 日本画家 東山魁夷氏
- ・ ガラス工芸家 藤田喬平氏
- ・ 小説家 永井荷風氏
- ・ 漆工芸家 佐治賢使氏



東山魁夷作「夏に入る」

人口ピラミッド 住民基本台帳+外国人登録
平成20年9月30日現在



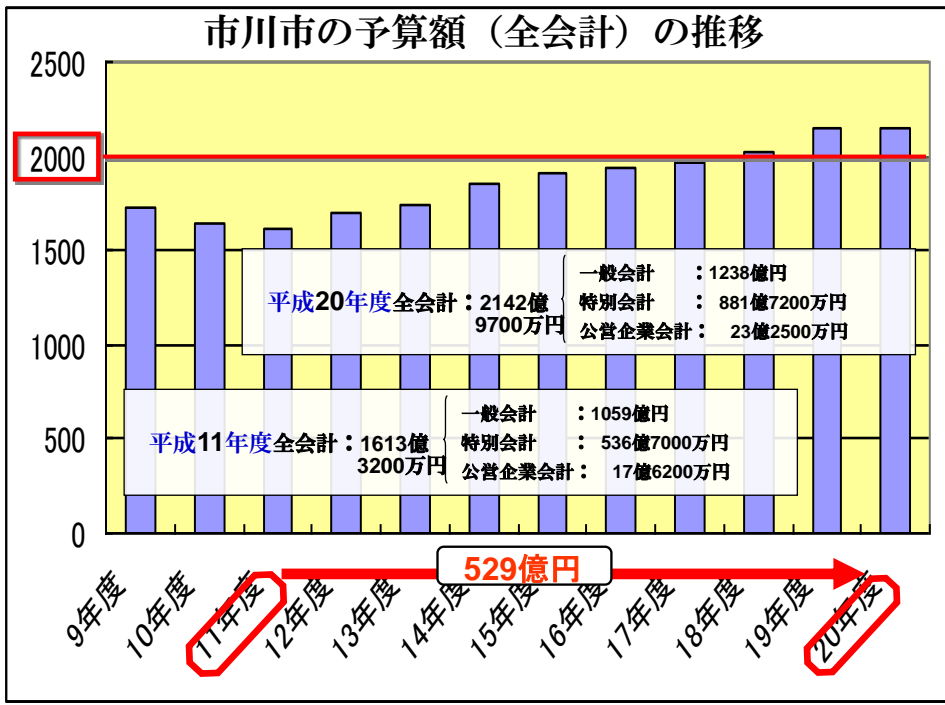
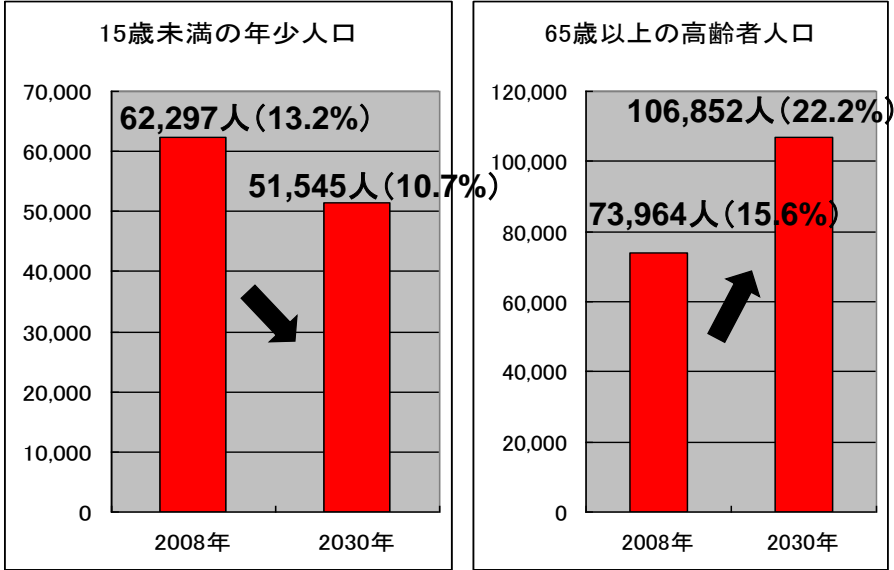
高齢化率

- 国 : 21.6%
 - 千葉県 : 19.1%
 - 市川市 : 15.6%
- (平成20年)

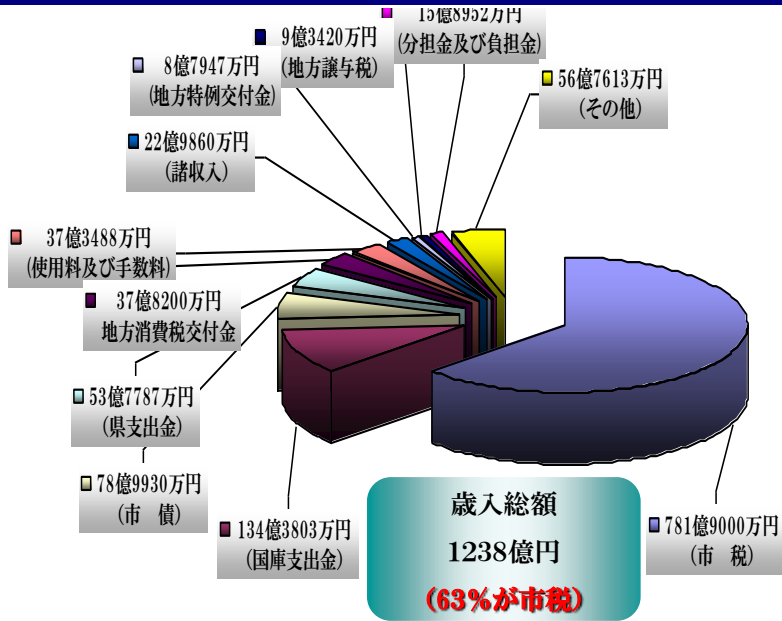
合計特殊出生率

- 国 : 1.34
 - 千葉県 : 1.25
 - 市川市 : 1.28
- (平成19年)

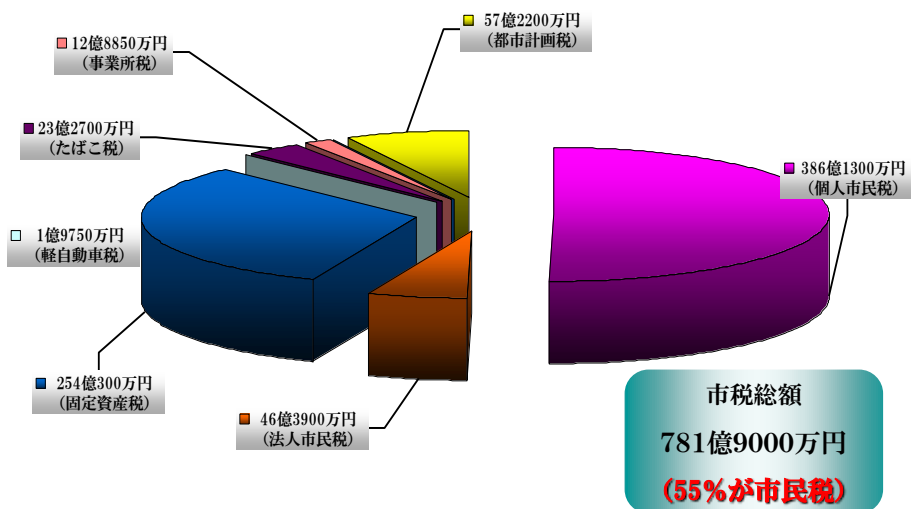
市川市の将来人口推計



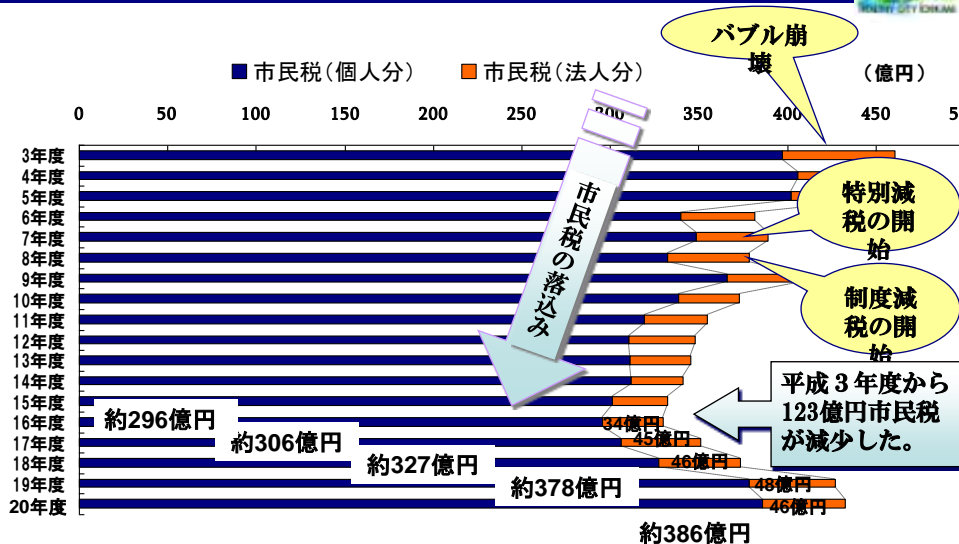
平成20年度一般会計当初予算額の歳入内訳



平成20年度の市税内訳



歳入の根幹をなす市民税の推移



13年間で123億円減少(毎年約10億円減少)

(平成3年度～平成19年度:決算、平成20年度:当初予算)

約10年間にわたる市川市の行政改革

「変革と挑戦」



第1次行財政改革

(減量的な改革～平成10年～平成14年頃)

例えば・・・

- 財政健全化計画、定員適正化計画の策定。
- 学校給食の委託化等、業務実施主体の見直し。
- 新規採用職員の採用を2年間凍結。行財政改革推進室を設置。
- 民間意見の反映の為 行財政改革懇話会を設置。

- 事務事業評価システムに着手。施設の光熱水費削減。
- 補助金の一律カットを実施。事業予算の削減、事務の統廃合に向けた努力。

など



部長室(個室)の廃止や窓口におけるローカウンターを設置。
 < 開かれた執務環境を整備 >
 も実施しました。



第2次行財政改革

(構造的な改革～平成14年頃～平成16年頃)

例えば・・・

- 行政経営会議の設置。
- ネットワーク型組織への転換。
- 庁内分権の推進(部への人事権、予算編成権の一部移譲)
- 業務フロー、市川市版ABC(活動基準原価計算)システムの導入。
- 事務事業評価システムのリニューアル。
- 予算充実に偏重しない多面的評価のバランススコアカード(BSC)の導入。
- 学歴・年齢制限撤廃による採用試験の導入。

など



第3次行財政改革

(真に市民本意の行財政運営の実施、

【市民との協働を重視】 世界に誇れる「市川市」へ飛躍する)

電子民主主義への期待 ⇒ 「e - モニター制度」への発展。

自治体マーケティング ⇒ 市民ニーズの分析。

市民活動団体との協働 ⇒ 1%支援制度。

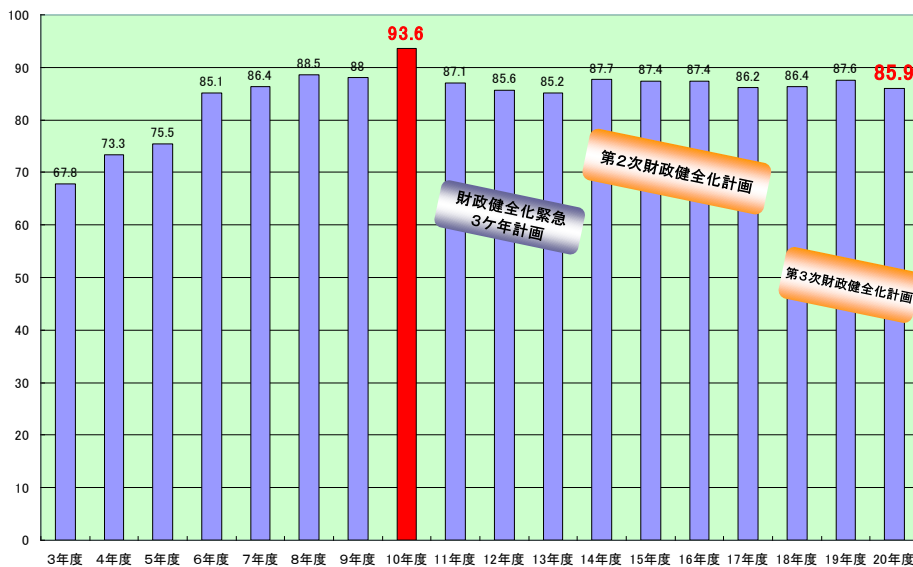
【都市ブランドの形成】

地域資本を最大限活用した文化都市の発進。

「健康都市いちかわ」の推進。



経常収支比率の推移

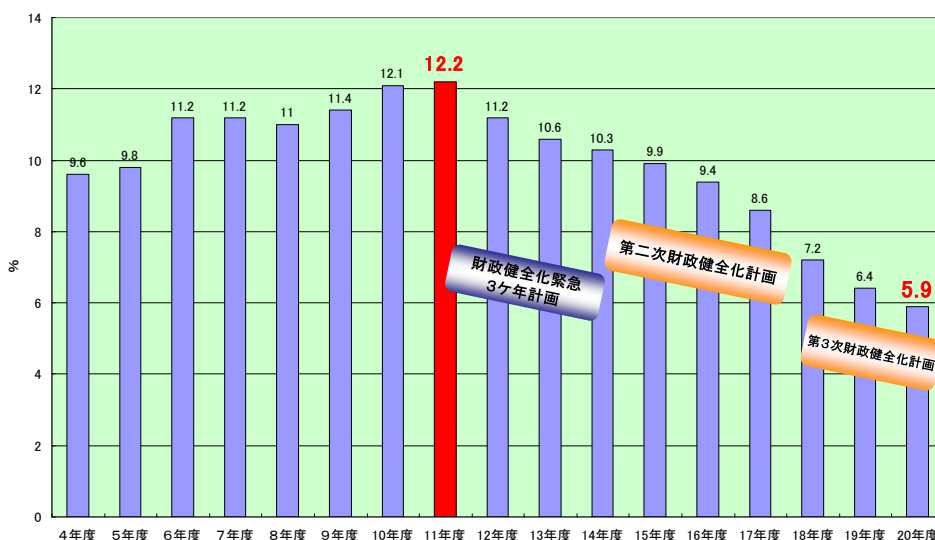


(平成3年度～平成19年度:決算 20年度:当初予算ベース)

公債費比率の推移

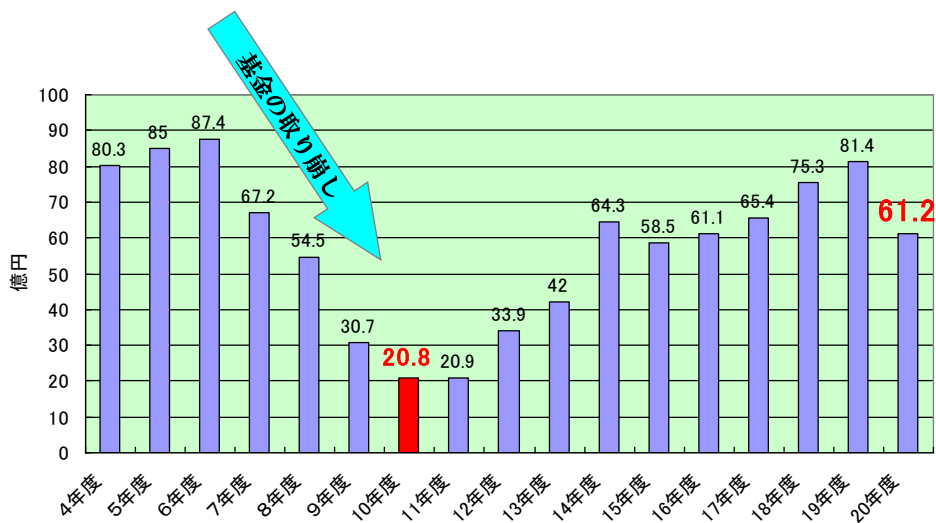


(税などの一般財源をどれくらい借入金の返済である公債費に充当しているかの割合)



(平成3年度～平成19年度:決算、平成20年度:年度末見込み)

財政調整基金の推移

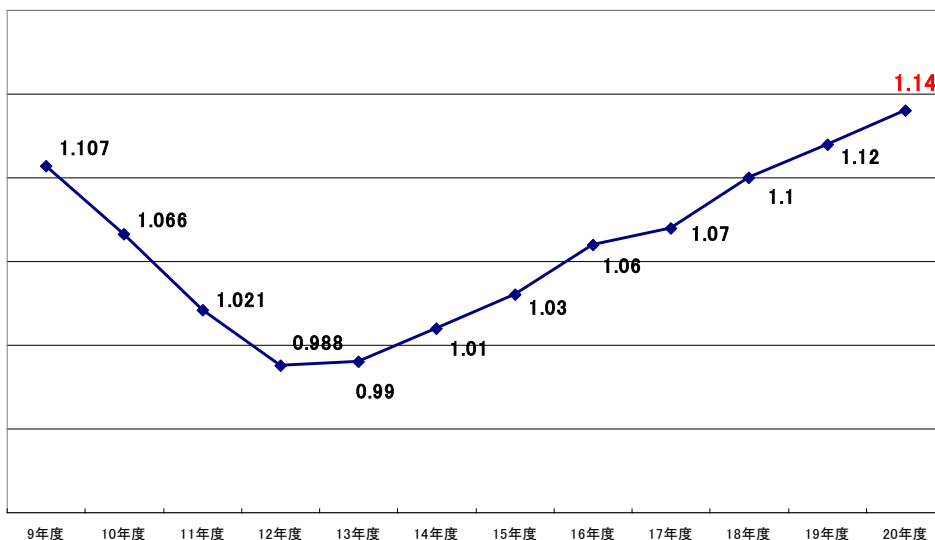


(平成4年度～平成19年度:決算、20年度:当初予算ベース)

財政力指数の推移

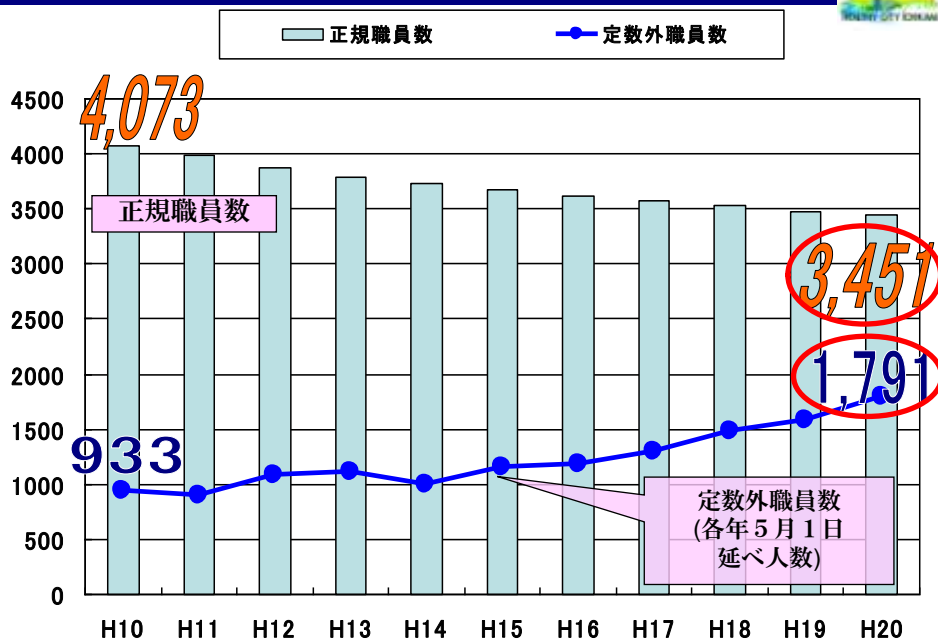


(財政基盤の強さを示す。1を超えると不交付団体となる。)



(平成3年度～平成19年度:決算、平成20年度:当初予算ベース)

職員数の適正化

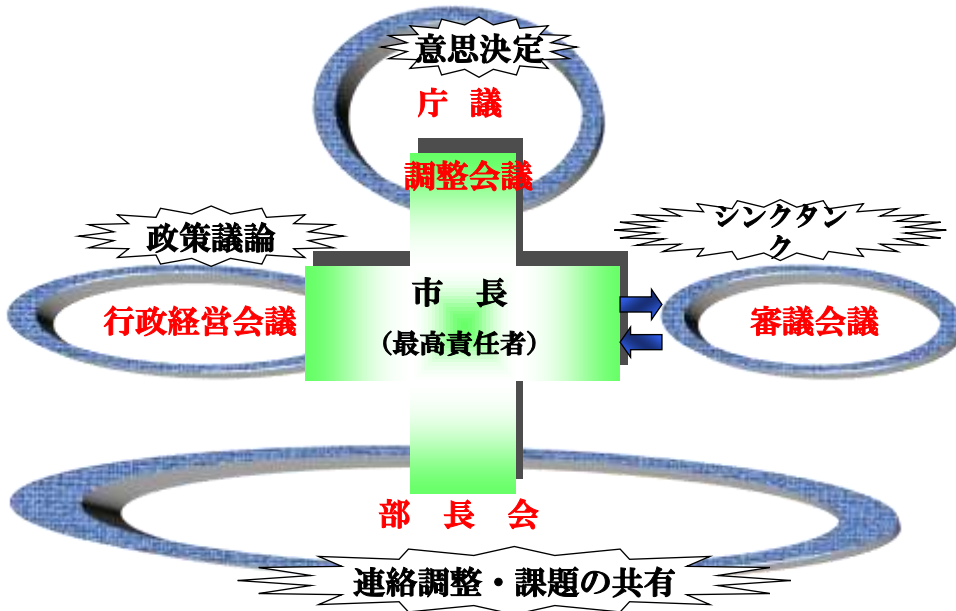


組織改革

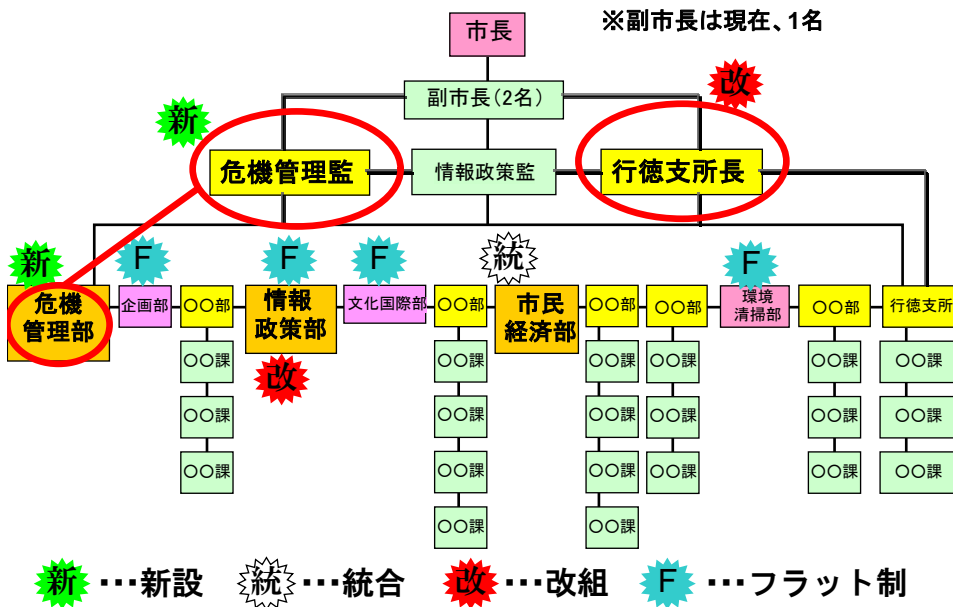


- ・ 行政経営会議（毎週月曜日午前8時）
- ・ 庁議を開設（毎週火曜日午前8時）
- ・ 大規模な行政組織改正
 - 平成10年度 1局24部142課（平成11年度 3部18課削減）
 - 平成18年度 25部125課（▲17課）
 - 平成19年度 24部133課（部スタッフ制による課相当23担当含）
 - 平成20年度 22部129課（部スタッフ制による課相当22担当含）
- ・ 局制の廃止・CIO（情報政策監）の設置
- ・ 危機管理監の設置、行徳支所長を格上げ
- ・ 庁内分権（人事権・予算編成権）
- ・ スタッフ制（係制廃止）の完全実施
- ・ 部スタッフ制の導入（4部）

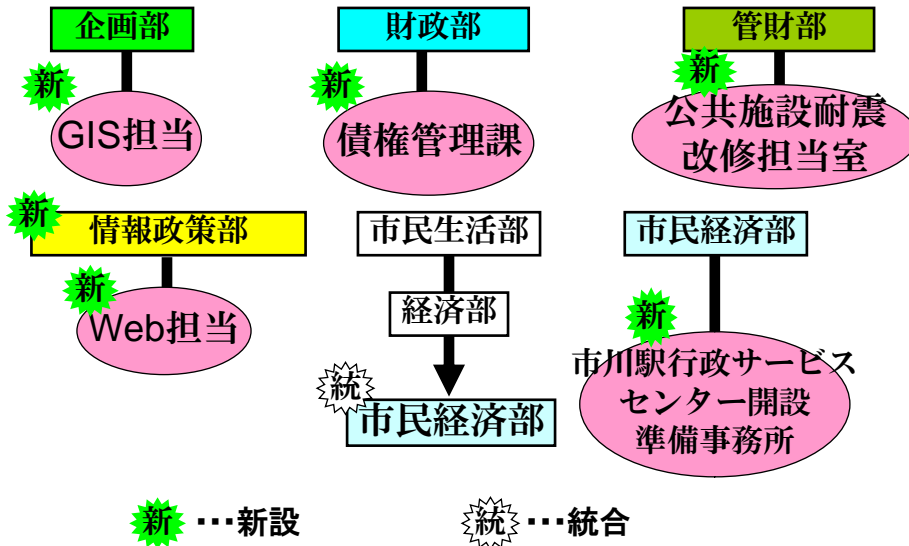
幹部職員の意識改革



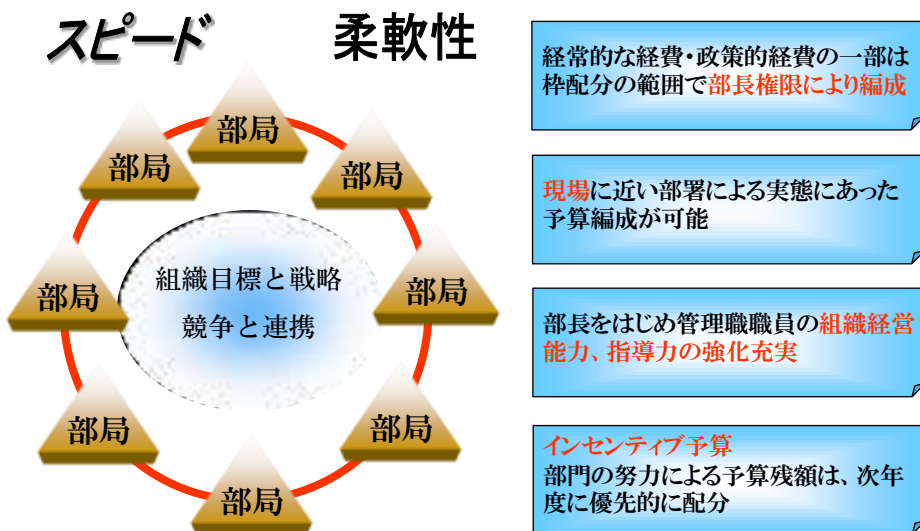
平成20年度新組織イメージ図



主な新組織体制



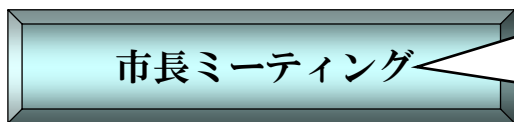
庁内分権（自律経営体としての部局）



市長ミーティングの実施

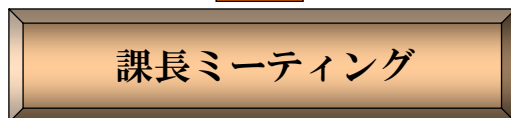
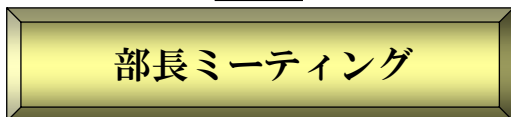


各部の目標や課題など、現状を把握し、それぞれの内容の問題点について共通認識し、取り組んでいます。

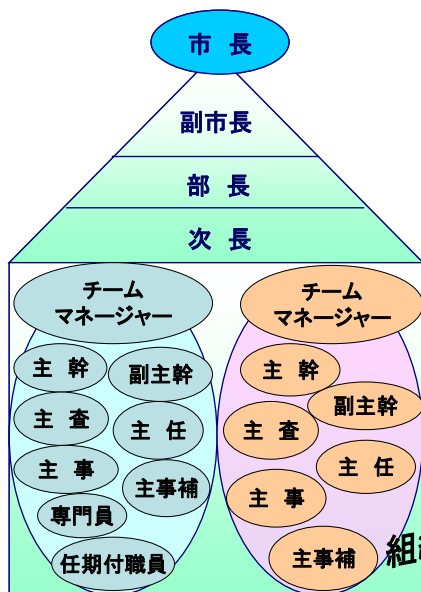


【出席者】

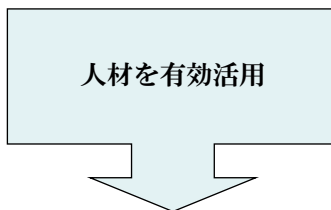
市長、副市長
課長（参事）、副参事
主幹、副主幹



スタッフ制の完全実施、部スタッフ制の導入



部付け人事の具体化



チームの概念

多様な雇用の形態

組織のフラット化

意思決定のスピードアップ

給与制度改革



- ・ 特別職の期末手当削減（20%）
 - ・ 職員の管理職手当削減（10%）
 - ・ 特殊勤務手当の統廃合
49種類68手当を35種類43手当に
 - ・ 住居手当、通勤手当の見直し
 - ・ 事務服の廃止
 - ・ 管理職の昇給延伸（平成11年4月～）
- 平成14年3月まで

- ・ 平成11年4月～
10種類の手当廃止、6種類の手当見直し
レジスター取扱手当、医学研究手当、少年補導手当、
技術研究手当、指導主事手当などを廃止
- ・ 平成12年4月～
3種類の手当廃止、6種類の手当見直し
往診手当、衛生管理者手当、菅平高原いちかわ村
勤務手当を廃止
- ・ 平成15年4月～
1種類の手当廃止、4種類の手当見直し
クリーンセンター夜間清掃手当を廃止
保育手当（15年度減額、17年度完全廃止）



49種類68手当 ⇒ 35種類43手当

人事制度改革



- ・ **課長職・主幹職登用試験の導入**
公正・公平・透明性の観点から、課長試験、主幹試験を面接官も含めて民間委託で実施
- ・ **勤務評定制度の見直し**
絶対評価による勤務評定、課長職の職員を部下も診断(360度評価)
- ・ **学歴、年齢制限撤廃による職員採用試験**
初年度(平成15年度)は例年の3倍にあたる5,350人の応募があり採用者の最高年齢は43歳(平均年齢29歳)、平成16年度は51歳(平均年齢30歳)、平成17年度は43歳(平均年齢27歳)、平成18年度は48歳(平均年齢27歳)16年度からは受験料の徴収と、民間人面接官を登用
- ・ **60歳以上の高齢者の採用**
平成18年度19人を採用(平均年齢64歳・最高齢73歳)、19年度はさらに8人
- ・ **専門員制度の導入**
市税滞納整理嘱託員、アスベスト調査専門員、水と緑の専門員など

民間企業などを退職した有能な人材の活用 (専門員制度)

1	財務専門員	財政課	14	環境学習専門員	環境政策担当
2	委託業務検証専門員	業務監理課	15	自然環境政策専門員	自然環境担当
3	土木工事専門員	設計監理課	16	環境分析専門員	環境保全担当
4	建築工事専門員	設計監理課	17	公害苦情相談専門員	環境保全担当
5	設備工事専門員	設計監理課	18	アスベスト調査専門員	環境保全担当
6	構造専門員	設計監理課	19	環境対策指導員	廃棄物対策担当
7	情報システム調達専門員	情報管理担当	20	起業支援アドバイザー	商工振興課
8	文化芸術専門員	文化振興担当	21	建築行政相談員	建築指導課
9	東山魁夷記念館 文化芸術専門員	東山魁夷記念館	22	建築観察員	建築指導課
10	国際交流専門員	国際交流担当	23	道路境界査定専門員	道路管理課
11	市民相談専門員	総合市民相談課	24	水と緑の専門員	水と緑の計画課
12	消費生活相談専門員	総合市民相談課	25	緑と花の専門員	緑地課
13	心理カウンセラー	子育て支援課			

事務事業の改善



- ・ 窓口サービスの向上 ローカウンター、名札、窓口の一元化
- ・ 環境への配慮 ISO14001、ごみの12分別収集、指定袋制
- ・ 業務フローによる事務事業の分析
活動フローと、作業フローの二層構造による分析
- ・ 市川市版ABC（Activity-Based-Costing）
活動フローと、作業フローの二層構造による分析業務フローで切り分けた活動ごとに様々な費用を配賦し、コスト構造を可視化し、事務の合理化、効率化によって創出した経営資源（人材）を、市民サービスに直結する活動に重点配分
- ・ BSC（バランス・スコア・カード）
財務の視点、業務プロセスの視点、市民満足度の視点、人材の育成と活用の視点の4つの視点による経営の最適化

一般的な（民間企業の）ABC分析は

変革と挑戦

1980年代後半

米国で、キャプランとノートンによって提唱

事業にかかる総コストを活動単位に配賦するもので、経営資源が、販売、営業部門などの業績にどのように影響を与えているか、顧客一人当たり、製品一つ当たりで総コストがどの程度あるか、といった内部コストの構造が明らかになる。

- ① 企業利益を圧迫している活動の把握
- ② アウトソースの効率的な活用
- ③ 本社・支社の一元的経営資源の管理 などに活用

一般的なABC分析を自治体に活用すると 変革と挑戦



期待される用途

総コストを活動ごとに把握し、アウトソーシングの公民比較

手数料算定の根拠

人件費を含めた総コストを活動単位に日時決算

議会、市民、職員組合への情報公開

市川市版ABC分析とは

変革と挑戦

一般的なABCの問題点

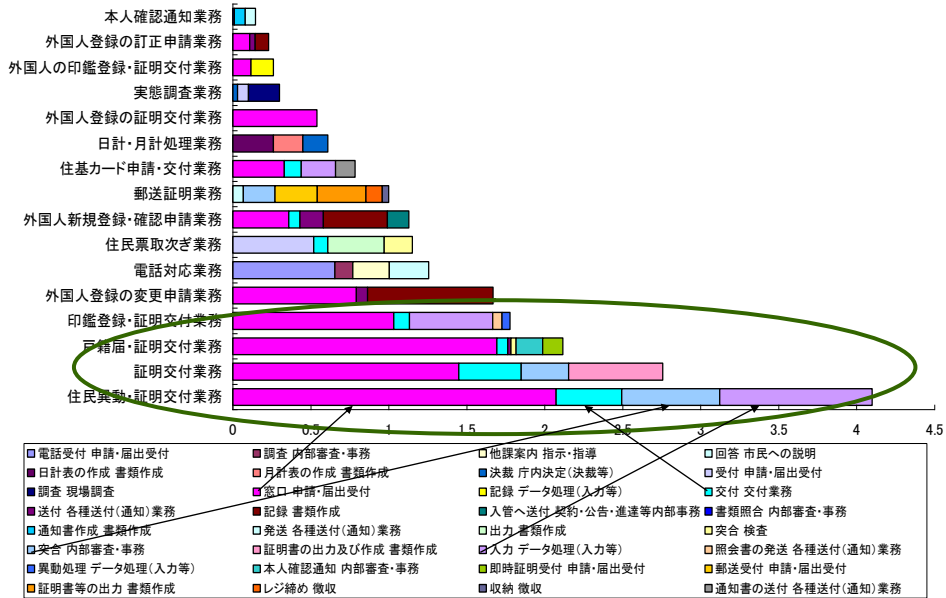
様々な用途に活用することが理論的に可能だが、デメリットとして分析自体にかかるコストが大きい。場合によっては分析自体が目的化するおそれもある。

市川市版ではメリットに繋がる要素を圧縮

- **定型業務**（いわゆるルーチンワーク）を対象
- 総コストではなく、**職員の活動量**に着目
- **事業ベース、活動ベース、組織ベースの3つの視点**

市川市

課のメイン業務こそ改善の対象

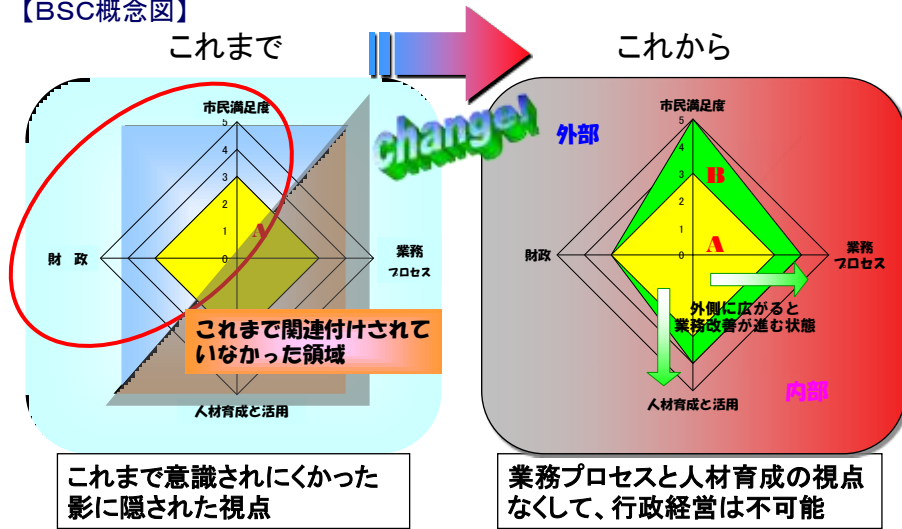


市民満足度・財務・業務プロセス・人材育成と活用 の4つの視点



経営フレームワーク (バランス・スコアカード)

【BSC概念図】



これまで意識されにくかった影に隠された視点

業務プロセスと人材育成の視点なくして、行政経営は不可能

これまでの改革の集大成としてBSCを導入

WHO憲章の精神を尊重した 「健康都市いちかわ」宣言



2004年(平成16年)11月、市制施行70周年記念式典の中で、WHO憲章の精神を尊重した「健康都市いちかわ」宣言を行い、本市がWHOの健康都市を目指していくことを世界に示しました。



世界保健機関(国際連合の専門機関)

WORLD

HEALTH

ORGANIZATION

国際連合教育科学文化機関(UNESCO)
国際通貨基金(IMF)
国際労働機関(ILO)



WHOによる健康の定義

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

健康とは、身体的、精神的そして社会的に良好な(安寧な)状態であることを意味し、単に病気でないとか、虚弱でないということではない。



わが国における「健康」の基準

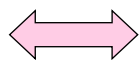
自然治癒力の低下



身体機能障害



病気



病気でない



健康？



WHOの健康都市の概念

健康を支える物的及び社会的環境を創り、向上させ、そこに住む人々が相互に支え合いながら生活する機能を最大限活かすことのできるように、地域の資源を常に発達させる都市である。

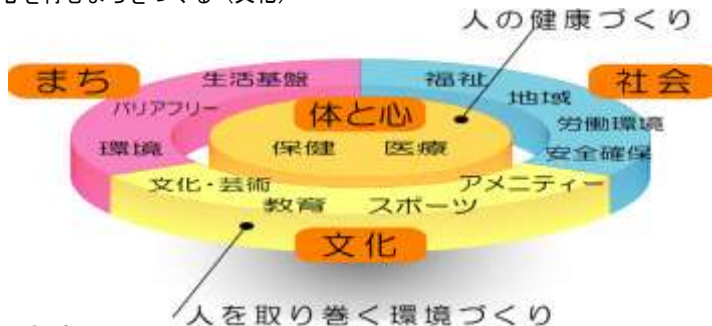
健康状態 ▶ 著しい影響 ▶ 健康の社会的決定要因



市川市健康都市プログラム



- ▶ 誰もが健康なまちをつくる（体と心） ———— 人の健康づくり
- ▶ 快適に暮らせるまちをつくる（まち） ————
- ▶ みんなで助け合うまちをつくる（社会） ———— 人を取り巻く環境づくり
- ▶ 豊かな心を育むまちをつくる（文化） ————



施策の柱 4 基本分野 1 3
 基本目標（大分類） 32 基本目標（小分類） 64
260事業

「健康都市いちかわ」10の目標

体と心

1. 食による健康づくり (13事業)

- (1) 「楽しい食を推進する」
- (2) 「食の安全を推進する」
- (3) 「正しい食習慣を普及する」



食生活改善推進員活動事業

2. 一人ひとりの健康づくり (19事業)

- (1) 「身近な運動習慣の推進」
- (2) 「心の健康づくりの推進」
- (3) 「健康管理・疾病予防の推進」



エンジョイはつらっシニア教室

「健康都市いちかわ」10の目標

まち

3. 楽しく歩ける道づくり (9事業)

- (1) 「安全に歩ける道」
- (2) 「人にやさしい道」
- (3) 「楽しい道」



江戸川活用総合計画（サイクリングロード）

4. 水と緑の環境づくり (13事業)

- (1) 「水辺空間の整備」
- (2) 「緑地保全と緑化の推進」
- (3) 「自然環境の保全及び再生」



小川畔生環境整備事業

5. 身近な環境活動 (14事業)

- (1) 「快適な生活環境の保全」
- (2) 「環境学習を推進する」
- (3) 「地域環境美化の促進」



身近な環境活動の推進
（環境家計簿の普及）

「健康都市いちかわ」10の目標

社会

6. 暮らしの安全向上 (23事業)

- (1) 「災害に強い防災まちづくり」
- (2) 「水害のないまちづくり」
- (3) 「安全で安心な生活環境づくり」



防犯パトロール推進事業

7. 地域ネットワークの拡大 (10事業)

- (1) 「地域で支える福祉の充実」
- (2) 「地域で支える子育て環境づくり」



地域ケアシステム推進事業

「健康都市いちかわ」10の目標

文化

8. スポーツの振興 (11事業)

- (1) 「スポーツ環境の整備」
- (2) 「スポーツに親しむ機会の提供」
- (3) 「総合的推進体制の整備」



平成17年4月にオープンした
中国分スポーツ広場

「健康都市いちかわ」10の目標

その他

9. ITを活用した健康支援（3事業）

- (1) 「健康づくりの推進」
- (2) 「市民のIT活用の推進」

10. 市民活動の支援（3事業）

- (1) 「活動のための支援環境づくり」

ヘルシースクール推進事業



子ども達が健康について自ら考え行動し
望ましいライフスタイルの確立を図ることを目的

4つの柱

- ・体づくり
- ・望ましい生活リズムの確立
- ・食に関する指導の充実
- ・安全、環境衛生の充実

心肺蘇生法講習会

新体力テストデータ処理

すこやか検診（小児生活習慣病検診）

個別相談、運動指導

食事調査

すこやか検診における有所見者の推移



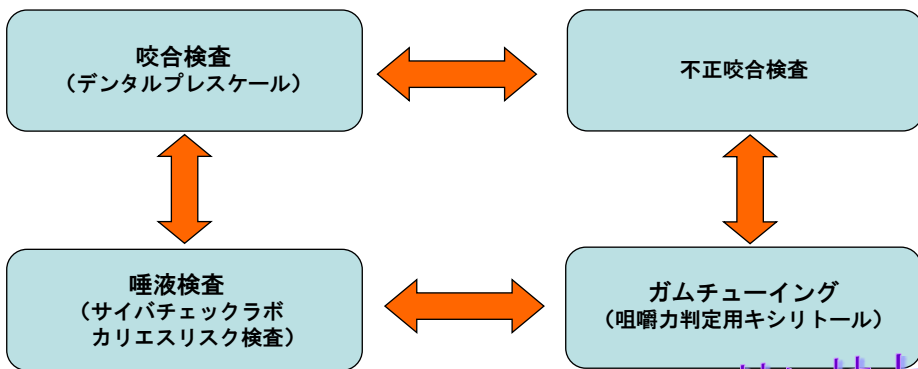
判定点数	判定区分	平成17年度 (%)			平成18年度 (%)			平成19年度 (%)		
		小5	中1	全体	小5	中1	全体	小5	中1	全体
0点	正常	68.1	68.7	68.3	77.6	82.9	79.7	79.5	82.6	80.8
1点	生活注意	20.9	21.8	21.2	12.3	8.7	10.9	11.0	11.7	11.3
2点	個別指導対象	5.3	4.9	5.1	6.4	4.9	5.8	5.4	3.0	4.4
3~4点	二次検診対象	4.7	3.4	4.2	3.0	2.8	2.9	3.5	2.1	2.9
5点以上	要医療対象	1.0	1.2	1.2	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6

所見あり
31.7%
20.3%
19.2%

※初年度の有所見者は、**3人に1人**でしたが、18・19年度は約**5人に1人**となりました。
 ※また、平成17年度当時小5の子ども達が、平成19年度に中1になり検診を受けた結果、
 正常の割合が **68.0% ⇒ 82.6%** へと改善されている傾向がわかりました。



ヘルシースクールすこやか口腔検診



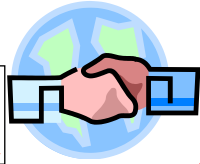
今年度は13校に拡大

昨年度、小・中学校モデル校で実施
 児童生徒の咬む力や唾液等検査結果を食生活の改善に役立てる。

保健推進員・食生活改善推進員



地域住民の健康保持を図るため、市から委嘱され、地域住民と行政をつなぐパイプ役として活動しています。



平成13年102名から
平成20年**150名に増員**

平成13年60名から
平成20年**100名に増員**

保健推進員

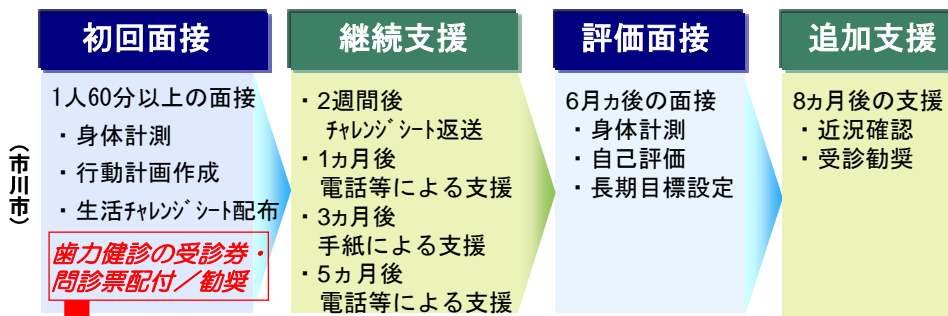
- ・ 3ヶ月児の訪問
- ・ 4ヶ月児赤ちゃん講座の運営支援
- ・ 乳児健診の案内
- ・ 育児や家族の健康についての相談

食生活改善推進員

- ・ 料理一日講習
- ・ 親子料理教室
- ・ ヘルスサポーター21育成講習
- ・ 食生活相談

市川市の特定健診・特定保健指導（ハイリスクアプローチ）

ヘルシー
動機づけ支援（減る脂一計画支援）：健康リスクが現れ始めた人への支援



市川市独自の『いきいき歯力(はぢから)健診』



〔老人保健法〕⇒〔高齢者の医療の確保に関する法律〕

健康づくりの普及啓発（ポピュレーションアプローチ）との相乗効果

市川市の特定健診・特定保健指導（ハイリスクアプローチ）

積極的支援（さよならメタボ実践支援）：健康リスクが複数ある人への支援



青色回転灯車両による防犯パトロール



新年度は市の公用車と民間団体の公用車あわせて140台に増加。



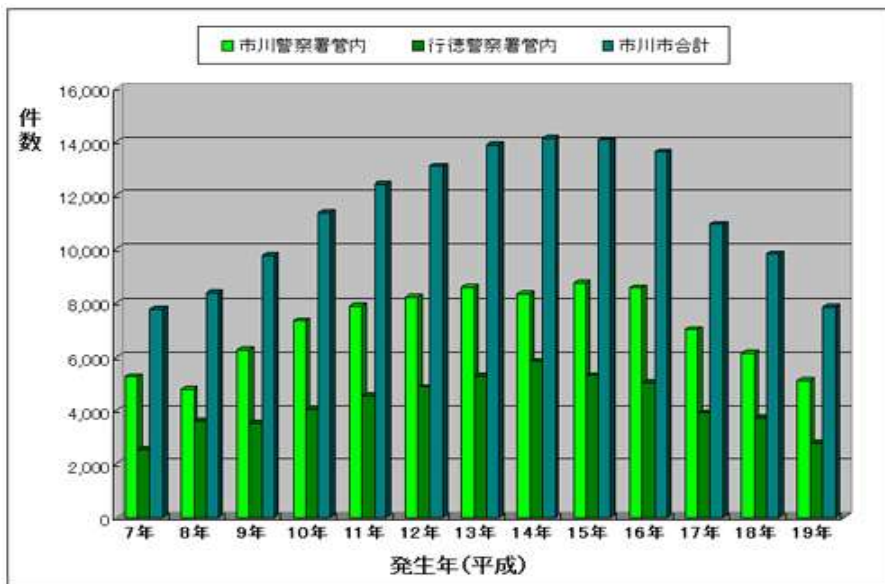
防犯カメラ条例の制定と 街頭防犯カメラの設置

市川市防犯カメラの適正な設置及び利用に関する条例
(平成17年7月1日施行)

新年度は通学路を中心に**50台**を設置予定。3年間で150台
を設置する。



市川市の刑法犯認知件数の推移(平成7年～平成19年)



耐震改修促進計画



市有建築物について、
平成25年までに耐震化率**100%**
を目指す！



信頼された学校づくり



小学校・中学校冷暖房設備設置事業



小中学校全普通教室に設置

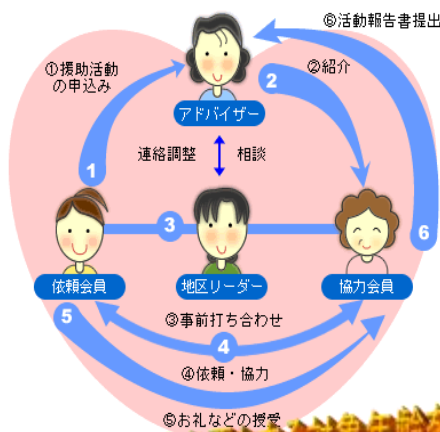
小学校38校 739教室
中学校16校 268教室 に設置

ファミリーサポートセンター事業

平成11年度から地域において会員同士で



子育てを支援する相互援助活動を実施



依頼会員とは
子育ての手助けをしてほしい方
協力会員とは
子育てのお手伝いをしたい方

- 保育時間前後の子どもの預かり
- 保育施設までの子どもの送迎
- 放課後の子どもの預かり
- 冠婚葬祭時の子どもの預かり

など

育児援助を必要とする対象年齢を見直し、会員の拡大を図る

現在の会員登録数：3,382名（20年9月末現在）

親子つどいの広場の開設



子育て家庭が身近で気軽に集え相談できる場所



〔ファミリーサポートセンター（広場、交流サロン）
地域子育て支援センター（親子の広場）〕



6月2日二俣地区に開設（新井、八幡、新浜に続いて4箇所目）

子どもの居場所づくり（ビーイング）事業

平成14年度から学校施設を活用し、



放課後の子どもたちの居場所づくり事業を実施

〔 曾谷小学校・鶴指小学校・塩浜小学校・市川小学校
宮田小学校・八幡小学校・稲荷木小学校・平田地域ふれあい館 〕



家庭、地域、学校が一体となり、

心豊かでたくましい子どもを社会全体で育む

地域ケアシステム事業



市川市社会福祉協議会の14支部を単位として、市や社会福祉協議会と協働・連携のもとに地域住民が主体となり行う福祉の実践活動

○ 地域での支え合い ○ 身近な場所での相談 ○ 相談体制の確立

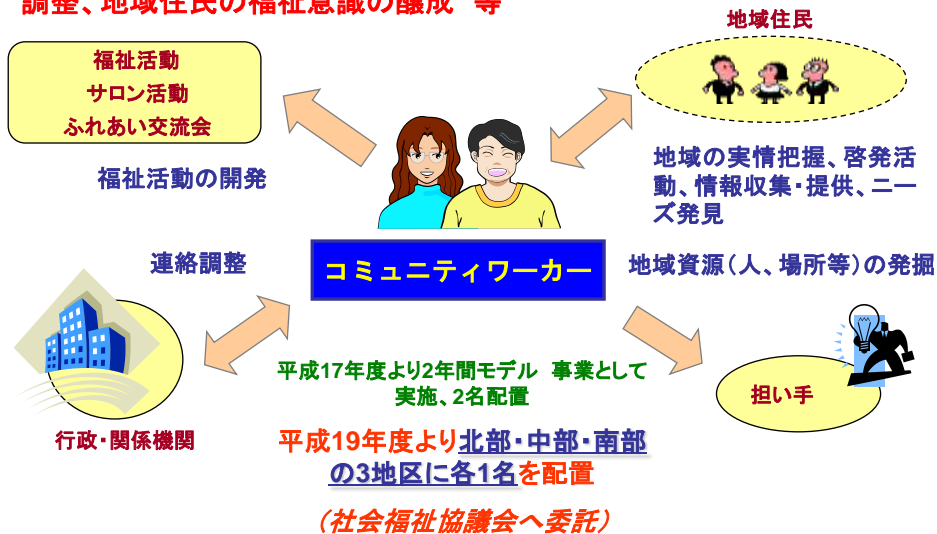
新年度はサロンを25箇所増やす



コミュニティワーカー



地域ケアシステムの運営支援、地域への情報提供、行政機関との連絡調整、地域住民の福祉意識の醸成 等



ホームレス自立支援事業



2006年WHO健康都市ベスト・プロポーザル賞を受賞

- 新年度は自立支援実施計画を策定
- 巡回指導、居住支援、結核健康診断
- 南行徳まちかど相談所(相談・援助活動)





街回遊展

- 平成11年度 (第1回) 「中山・若宮街回遊展」
- 平成12年度 (第2回) 「市川・真間街回遊展」
- (第3回) 「行徳街回遊展」
- 平成13年度 (第4回) 「大野街回遊展」
- 平成14年度 (第5回) 「八幡街回遊展」
- 平成15年度 (第6回) 「国府台・矢切街回遊展」
- 平成16年度 (第7回) 「須和田・国分街回遊展」
- 平成17年度 (第8回) 「中山街回遊展」
- 平成18年度 (第9回) 「行徳街回遊展」
- 平成19年度 (第10回) 「真間街回遊展」
- 平成20年度 **原木・高谷・田尻地区**



「市川の文化人展」

- 平成11年度 (第1回)
宗左近氏「宗左近宇宙」
- 平成12年度 (第2回)
藤田喬平氏「藤田喬平の世界展」
- 平成13年度 (第3回)
中山忠彦氏「中山忠彦・美の世界展」
- 平成14年度 (第4回)
藤野天光氏・村上正治氏「地域文化に光を灯した二人」
- 平成15年度 (第5回)
永井荷風氏「荷風が生きた市川」
- 平成16年度 (第6回)
小島貞二氏「相撲と演芸・小島貞二の世界」
- 平成17年度 (第7回)
大須賀力氏「大須賀芸術の軌跡をたどる」
- 平成18年度 (第8回)
井上ひさし氏「一本のペン先から広がる世界」
- 平成19年度 (第9回)
星野道夫氏「君に出会えてよかった」



- 平成20年度 (第10回)
佐治賢棧氏を顕彰予定

市川市環境市民会議（第1期～第6期）



市民公募による自主運営

※主な提案内容

- ◇資源循環型社会をめざす
- ◇マイバッグ持参による買物
- ◇剪定枝などは堆肥化処理しよう
- ◇ごみの分別収集の徹底化
- ◇環境ISO14001の取得
- ◇学校をごみゼロ推進の拠点に
- ◇海を生かした街づくりを
- ◇自然保護課を設ける
- ◇「緑の基本計画」を市民参加で
- ◇市民参加の継続
- ◇地球環境保全の取り組み
- ◇里親ネットワーク構築
- ◇エコライフの普及啓発

平成11年2月～ 平成20年9月～

ごみの12分別収集

平成14年10月～



みずアドバイザー

（生活排水対策活動の実践（第8期：15名））





じゅんかんパートナー

資源が循環するまちを目指す、ごみ問題を一緒に考える地域のリーダー

- ・ 埋め立てに頼らず、できる限り資源として行かしていくこと

地域活動・地元の分別指導者



活動内容の報告・情報交換
ごみ関連知識の習得・研修会



エコライフ推進員 (第6期15人)

エコライフ実践のための技能、手法を備えた人材を育成

- ・ 自治会、小中学校、公民館などでエコクッキング、エコショッピング、エコドライブなどの講座を開催
- ・ 地球温暖化対策推進、環境家計簿の普及推進



エコクッキング



市民まつり啓発

アドプト・プログラム（里親制度）



市民の手による緑地整備
（堀之内緑地）



市民参加の公園づくり

（市川ガーデニングクラブ：会員約300名・41箇所）



生垣設置費用の全額助成



身近な緑の創出と都市の景観・防災機能の向上

/m

設置助成基準 15,000円

000円/m

撤去助成基準 5,



水辺プラザ事業（大柏川第一調節池）



大柏川第一調節池を真間川下流域の水害を防ぐための治水機能だけでなく、水と緑の貴重なオープンスペースとして親水機能を持つ水辺空間として整備しました（19年6月開園）



面積 : 約16ヘクタール
主な施設: 北部広場、ビジターセンター

市民あま水条例 テレビ朝日「報道ステーション」で放映

市民と行政の協働による雨水浸透施設と雨水小型貯留施設の設置



浸透ます総設置基数:2,716基(うちモデル事業792基)

平成18年度「循環・共生・参加まちづくり表彰」



自動交付機 平成18年度23台設置、19年度は市内主要駅等に6台設置



住基カード交付手数料（500円）の不徴収を実施（18.10.1～20.3.31）



- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 住民票の写し | } 19.1.1～
自動交付機による交付手数料を
300円から250円に引下げ |
| 2. 印鑑登録証明 | |
| 3. 市県民税課税証明 | |
| 4. 市県民税納税証明 | |
| 5. 市県民税非課税証明 | |
| 6. 固定資産税・都市計画税納税証明 | |
| 7. 固定資産評価証明 | |
| 8. 固定資産税・都市計画税公課証明 | |
| 9. はり、きゅう、マッサージ施術費助成券 | |
| 10. 福祉タクシー利用券 | |

市川ダイエー店設置セレモニー

※ 税関係の証明書、福祉関係の助成券等は平成19年1月から支所、出張所、公民館（14館）、塩浜市民体育館などで交付開始

市川ダイエー、妙典サティ、京成線市川真間駅、京成線国府台駅、JR本八幡駅、北総線北国分駅に設置済。
今年度はJR市川駅南口再開発ビル内に開設される行政サービスセンターに設置。

市川駅行政サービスセンター（B棟3階）

・開庁時間
月～金
8:45～20:00
土
8:45～17:00

A棟45階建 市川駅南口再開発事業

B棟37階建

A棟: 保育園、
図書館、市民
が展望できる
ラウンジ

B棟: ほかに
NPO支援
センター等

- 窓口受付事業の一部を業務委託
- 委託先職員が大多数の職員体制（正規職員4名のみ）

市川市e - モニター制度(登録制アンケート制度)



～市民生活の実態が把握できる大切な仕組み～
One - to - One の 双方向コミュニケーション

インターネットを活用し、パソコンや携帯電話へ電子メールで市からアンケートや情報を発信し、回答していただきます。
そして、みなさんの声を広く集め市政に反映していくものです。**(予算編成にも活用)**
モニター登録は無料です。



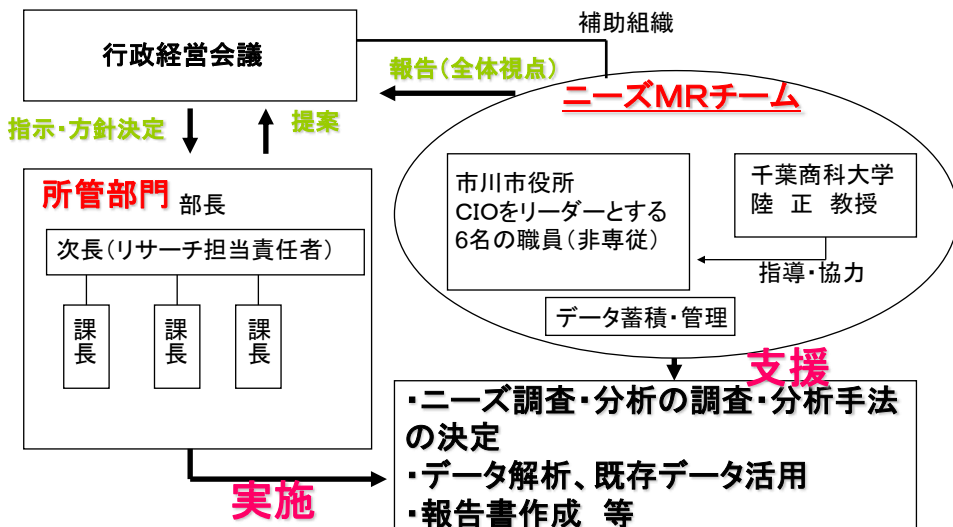
【 これまでの実績 】

質問回数 : 実績 **80** 回

回答率 : 約 **64** %

会員数 : 約 **3,657** 名
(H20.10.1現在)

市民ニーズ・職員ニーズを施策に生かす ニーズ・マーケティング・リサーチ(ニーズMR) チームの設置



電子自治会推進事業 (ITを活用した地域活性化)



現在42自治会が公開中

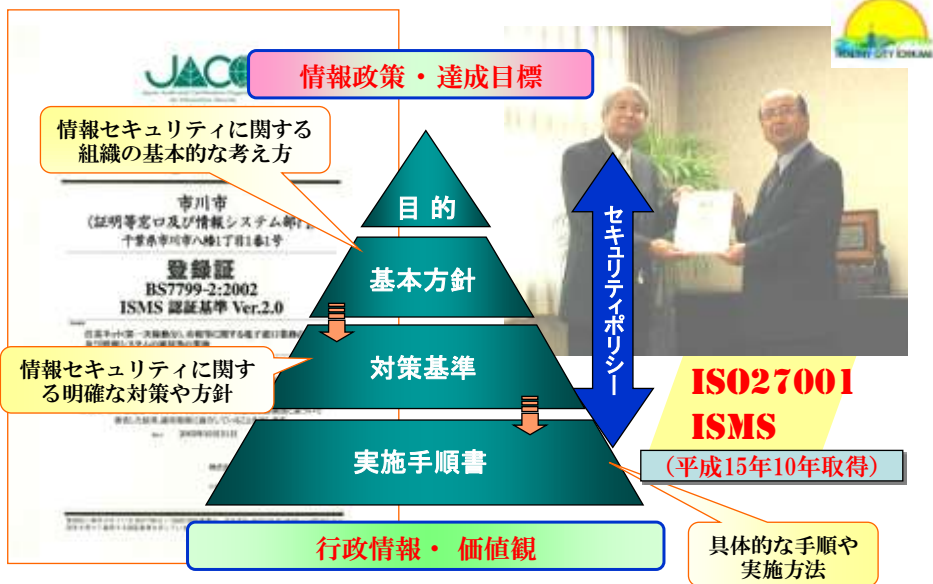
市川市 電子自治会 ホーム サイトマップ

稲越自治会トップページ	稲越自治会—稲越自治会トップページ—
会長挨拶	
稲越自治会の紹介	
定例役員会	
稲越自治会規約	
イベント紹介	
年間行事	
自治会傘下団体の紹介	
稲越自治会写真集	
リンク集	

新着情報

- ・鯉のぼり写真集
- ・歳末夜警写真集
- ・歩こう会写真集
- ・こども自治会
- ・年間行事
- ・稲越自治会規約
- ・定例役員会

情報セキュリティの基本方針と対策基準



電子自治体の推進の評価



「電子自治体ランキング」4年連続総合全国トップ

(日本経済新聞と日経産業消費研究所)

主な要因

行政内部の電子化 (全国2位)	→	文書決裁システム・統合型GISシステム
住民サービス (全国4位)	→	市民ニーズシステム・施設予約システム
セキュリティ対策 (全国1位)	→	ISMS認証取得・ISO27001・ICカード職員証

「e都市ランキング2007」(日経パソコン)

昨年度の3位から1位へ ①情報・サービス、②アクセシビリティ、

③庁内情報化、④情報化政策、⑤セキュリティの5分野に分類。

市民ニーズをデータベース化して政策に反映する仕組みの整備

自動交付機の積極的な導入

「ITガバナンス」(日経BPガバメントテクノロジー)

470自治体中、**全国第1位(総合)** 基本戦略(2位)、推進体制・人材育成(4位)、予算・実行計画・評価(4位)、調達・開発・運用(4位)、**セキュリティ・リスク管理(1位)**、ユーザーコミュニケーション(4位)

入札制度改革と業務監理課



○公共工事に係る入札を
全件一般競争入札(電子システムによる)拡大

○総合評価競争入札の拡大
(価格の安さだけでなく品質の確保が目的)

○低入札調査の強化
(品質の確保とダンピング防止策)

入札制度改革

業務監理課

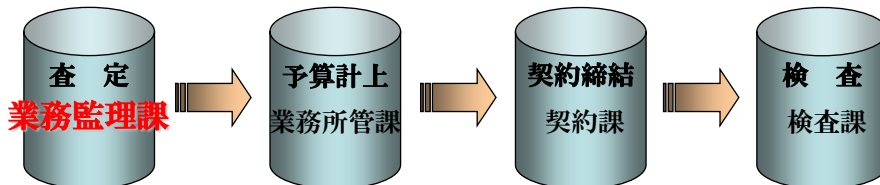
全国初

都市計画関係コンサルタウト業務

工事の設計業務

設備機器の保守管理業務

職員5名のほかに委託業務検査
専門員7名を配置



業務監理課の業務内容



○業務委託に係る仕様書及び設計書の執行審査

平成19年度464件累積見直し額約1億4400万

○新規業務委託の予算見積もりの支援

平成20年度分 予算見積件数 95件

○業務委託の標準仕様書及び積算基準の作成

大阪府や民主党議員など多数視察依頼あり

千葉商科大学との包括協定



2008年5月

市川市



千葉商科大学

- ・市が大学の資源を利用
- ・大学が市の資源を利用
- ・相互利用 6分野の協力

包括協定の内容



1 情報通信

インターネット放送の番組制作、インターネット市長講義など

2 文化・国際

図書館の相互利用、街回遊展等での協力など

3 スポーツ振興

スポーツ施設の相互利用など



包括協定の内容



4 環境

市民環境講座への大学教員の派遣など

5 まちづくり・産業振興

まちづくりに関する市民意見交換会への学生の参加など

6 災害分野

避難所の立ち上げ訓練の協力など



さまざまな市民活動の様子



知的障がい児のための水泳療育



特別養護老人ホーム等への慰問



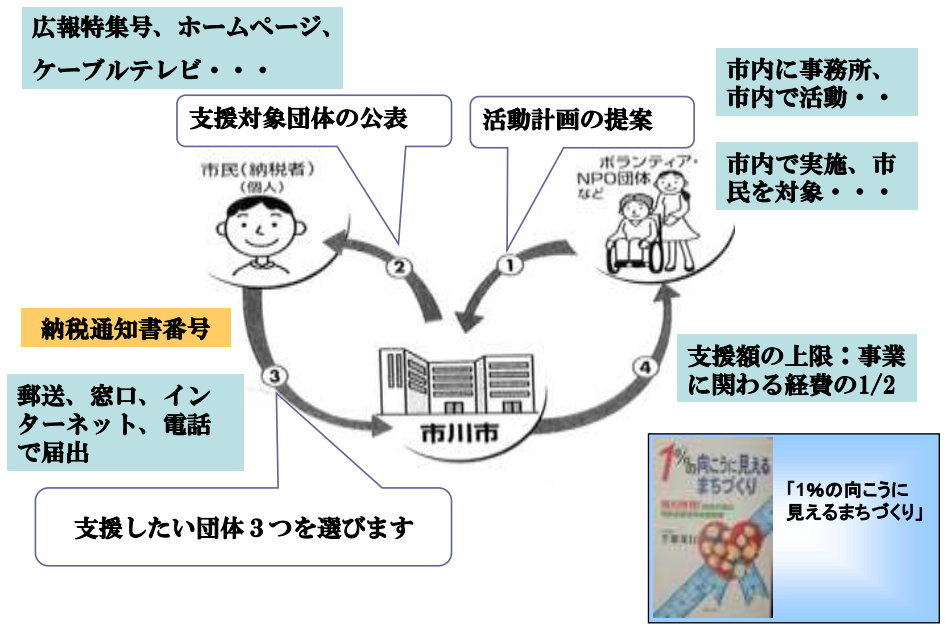
健康ウォーキング



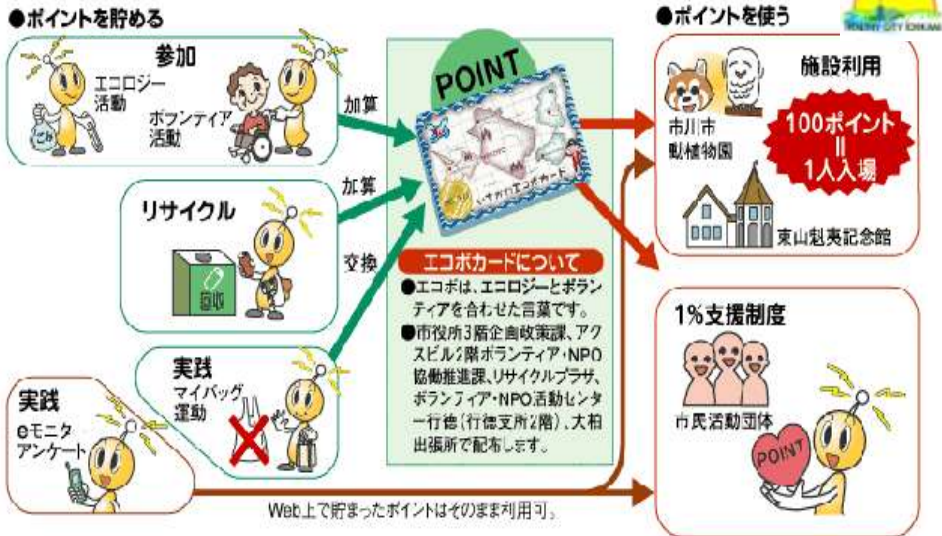
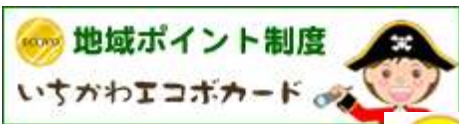
障がい者と一緒に自然とふれあうキャンプ活動

1%支援制度のあらまし

今年度で4年目



幅広い市民の参加



1% **あなたが選んだ市民活動団体をあなたの税の1%でサポート**
市民活動団体支援制度



■ 申請結果 (平成20年度 受付期間 1/21~2/12)

	H20	H19
応募団体数	104団体(過去最高) (104団体全て支援対象団体。初めて応募した団体が20団体)	85団体 (85団体全て支援対象団体)
事業費総額	72,626,600 円	47,250,530 円
交付申請額	23,308,700 円	19,944,720 円

	H18	H17
応募団体数	99団体 (うち支援対象団体98) その後取下げ2団体	83団体 (うち支援対象団体81)
事業費総額	71,715,370 円	67,399,471 円
交付申請額	25,708,000 円	29,245,170 円

1%支援制度の選択届出集計結果

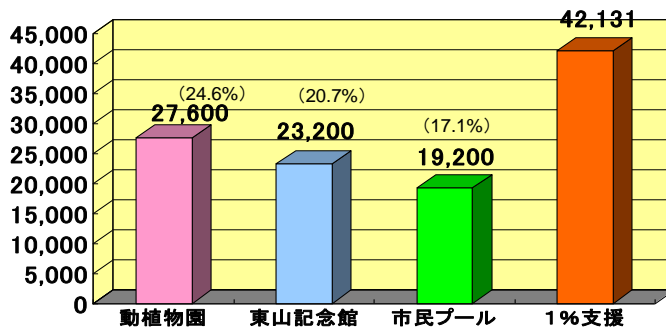


	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
支援対象団体数	81団体	98団体	85団体	104団体
選択届出期間	4月9日～5月10日 (32日間)	4月15日～5月26日 (42日間)	4月28日～5月31日 (34日間)	6月7日～7月10日 (34日間)
届出総数	6,266人	6,996人	5,633人	9,256人
有効届出数	5,557人	6,344人	5,136人	8,278人
	13,418,960円	15,190,785円	13,927,870円	19,433,692円
	団体選択 5,049人 12,427,815円	団体選択 5,896人 14,168,225円	団体選択 4,744人 12,965,303円	団体選択 7,196人 17,369,120円
	基金積立 508人 991,145円	基金積立 448人 1,022,560円	基金積立 392人 962,567円	基金積立 1,082人 2,064,572円
無効届出数	709人	652人	497人	978人
地域ポイントによる支援			42,131ポイント 団体支援 37,968 P	111,327ポイント 団体支援 105,323 P 基金積立 6,004 P

地域ポイントの利用実績

(平成19年4月～平成19年7月 4ヶ月間)

(37.6%)



合計利用件数 : 112,131ポイント

(地域ポイント回収率 : 17.7%)

合計利用人数 : 1,032人

地方自治法60周年記念式典にて総務大臣表彰を受賞



総務大臣表彰



これまで取り組んできた様々な施策が評価された。

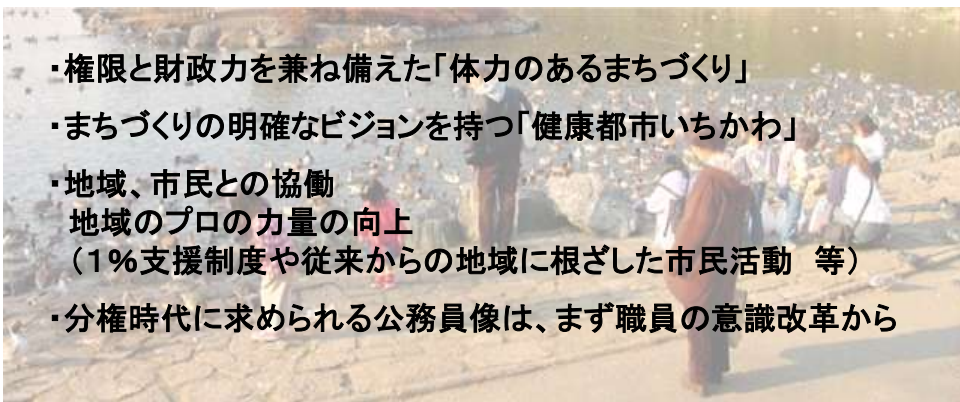
地域のことは、地域で考え、地域で決める



市長就任以来の市政運営のキーワード

「地域」「健康」「協働」

- ・権限と財政力を兼ね備えた「体力のあるまちづくり」
- ・まちづくりの明確なビジョンを持つ「健康都市いちかわ」
- ・地域、市民との協働
地域のプロの力量の向上
(1%支援制度や従来からの地域に根ざした市民活動 等)
- ・分権時代に求められる公務員像は、まず職員の意識改革から





第一回健康都市連合総会・大会 2004年マレーシア、クチン市



第一回健康都市連合総会・大会 2004年マレーシア、クチン市

【取り組み事例発表】

「他部門の協働による市民のスモキングマナーの向上」

【WHO健康都市表彰の受賞】

「食生活改善と栄養に関するプログラム」および
「地域参加による喫煙マナー向上計画」に関する取
り組みが健康都市プロジェクト賞をフィリピン・マリキ
ナ市と共同受賞



2005年WHO健康都市表彰を受賞(投稿)

「精神障害者のサポート」に関する取り組みが
「コミュニティに根ざしたリハビリテーション」の部門で、
グッドプラクティス賞を受賞し、2年連続WHOより表彰されました。



第二回健康都市連合総会・大会 2006年 中国 蘇州市





第二回健康都市連合総会・大会 2006年 中国 蘇州市

【取り組み事例発表】

- 「健康都市連合日本支部と健康都市間の交流」
- 「過去の健康都市表彰受賞事例」
- 「地域パワーを生かした健康都市」

【WHO健康都市表彰の受賞】

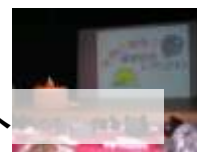
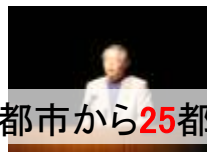
- 「ホームレス自立支援実施事業」について
2006年WHO健康都市ベスト・プロポーザル賞を受賞
- 「市川市の健康都市進捗評価」について
- 2006年健康都市連合グッド・プラクティス賞を受賞



健康都市連合日本支部総会・大会

総会のテーマ

- 第1回 2005年7月 **市川市** “手をつなごう 健康都市の仲間たち”
- 第2回 2006年7月 **市川市** “地域パワーを活かした健康都市”
- 第3回 2007年7月 **尾張旭市** “市民が実践する健康都市”
- 第4回 2008年7月 **多治見市** “市民参加による健康づくり”



加盟都市は4都市から**25**都市へ

健康都市連联合国際大会開催！



第3回

健康都市連联合国際大会

2008年10月23日(木)～26日(日)

主催

共催



健康都市連合



市川市



World Health
Organization
REGIONAL OFFICE FOR THE
Western Pacific

世界保健機関 西太平洋地域事務局

第3回健康都市連联合国際大会実行委員会

2008年10月9日現在

参加申込状況



参加国 15の国と地域

参加都市等 86都市、79団体

参加者 553名

(日本 37都市・団体、参加者94人、

韓国 41都市・団体、参加者195人、

中国 20都市・団体、参加者88人、

台湾 16都市・団体、参加者62人、

フィリピン7都市・団体、参加者28人

WHOなどの8国際機関、参加者25人

ほかモンゴル28人、マレーシア・オーストラリア9人、シンガポール・イラン・インドネシア・ベトナム3人、カンボジア・サウジアラビア・アメリカ1人)

第1日【10月23日(木)】



主な予定

- 大会開催記念 コンサート (文化会館 大ホール)

18:30～20:30

崔 岩光さんと子どもたちのジョイントコンサート
(崔さんと子どもたちによる合唱(南行徳中学校)、
ブラスバンド(妙典中学校)等を予定)



- 大会開催記念 講演会

(文化会館 小ホール) 16:00～17:45

健康教育講演会「新型インフルエンザと健康の話」



第2日【10月24日(金)】



主な予定

- 健康都市連合理事都市会議 (幕張地区)

- 市内視察 市川市の取り組みを紹介 (市内)

環境関連コース : 「環境にやさしい」ごみ処理システムである施設など

医療・福祉コース : 寝たきりを作らないことを目的とした複合施設など

防災関連コース : 災害時に救援拠点や輸送中継拠点となる施設など

文化財コース : 健康都市の要素のひとつである文化施設など

教育関連コース : 教育現場の見学、多世代交流実現に向けた施設など

幕張周辺コース : 宿泊施設の周辺地域にある施設や見所など



- 市長ミーティング・市長レセプション(幕張地区)

- 健康絵日記の展示 (メディアパーク市川)

- 青年会議所主催講演会 (I&Iホール)



第3日【10月25日(土)】



主な予定

メイン会場：文化会館

➤ 開会式 9:30～10:15

➤ 基調講演 10:15～11:00

尾身茂WHO西太平洋地域事務局長による講演

➤ 市長サミット・市川宣言の発表

11:00～12:30

健康都市を推進するための国際的強調体制等について話し合い、アクションプランとしを市川宣言として発信



第3日【10月25日(土)】



主な予定

メイン会場：文化会館

➤ WHO・健康都市連合 表彰式

特定の分野で際立った取り組みを評価し表彰

➤ 健康絵日記の発表（文化会館）

14:00～

「家族と健康」をテーマにした絵日記の優秀作品を表彰

➤ 国際交流イベント（大和田小学校）10:00～15:

3C インターナショナルデー、国際食フェア、物品販売等を予定
※文化会館で日本文化紹介も予定



第4日【10月26日(日)】



主な予定

メイン会場：千葉商科大学

分科会

10:15~15:20

1. 都市間ネットワークをさらに強固にする支部活動
2. セティングアプローチの展開
3. 健康都市の評価方法と持続可能な取り組み
4. 安全な都市生活をおくるために
5. 地域の発展につながる健康都市の取り組み
6. 健康都市の取り組みにおけるITの活用
7. 次世代に引き継ぐ健康都市
8. 食の問題を考える
9. 体を動かす場と機会
10. こころの健康を支える取り組み

第4日【10月26日(日)】



主な予定

メイン会場：千葉商科大学

- AFHC連合総会 9:00~12:00
- WHO神戸センター主催シンポジウム
12:00~14:00
「都市の健康問題の評価と対応」
- 市川セッション 10:00~16:30
市民・NPOブース、物産展、
県人会ブース、日本支部ブースなど
- 閉会式 15:30~16:00



第4日【10月26日(日)】



その他のイベント

- 還暦式 会場：和洋女子大学
10:00～16:00

60歳の新たな人生の門出をお祝いする

- 行徳まつり 会場：
行徳文化ホール I&I
9:30～17:00



ご清聴ありがとうございました

2008年10月23日から開催
第3回健康都市
連合国際会議

あと6日

